

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101966		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド高の原		
所在地	奈良市朱雀6丁目2-15		
自己評価作成日	平成21年12月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成22年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様同士の交流を大切にし、家庭的な雰囲気作りに努めます。公民館活動や散歩等を通じて、地域のふれあいには積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

縦長4階建ての民家にエレベーターをつけているが、3名の利用者は階段を利用している。ハード面では、車イスが使用できないなど制限はあるが、この民家を活かしながら自然体で過ごすことで足腰が強くなってきている。近くに公園、スーパー、喫茶店があり、よく出かけている。職員は笑顔いっぱい、手作りの食事・おやつで利用者の体調管理に努めている。レクリエーションはロールピクチャーなど楽しいアイデアいっぱい、外食、ピクニックなどの行事も企画されている。利用者・職員が楽しく仲の良いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲げ、いつも眼につくようにしている。職員会議等でこの理念のもと常に意思の統一を図り、日々の介護で実践している。	法人の理念をホーム内に掲示している。ホーム独自の今年の目標「気づきをもって対応する」をたて、4月から気づきノートを作り、全職員の気づきを書き込んで日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この1年では、運営推進会議を通じて地域包括支援センター職員、地域の歯医者さんと顔馴染みになった。散歩途中等で思わぬお声掛けがあり、地域に溶け込んできたな～と実感している。	自治会に加入し、夏祭り・文化祭・クリーン(清掃)運動に職員と共に利用者も参加している。ある団体が勤めるアルミ空き缶のプルタブ回収をするため週1回近隣の公民館へ出向き地域の方たちとのふれあいを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能な限り、民生委員や地域包括支援センターと協力し、高齢者(特に一人暮らし)の方の安全をどのようにしたら守れるかを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで実施している。"連携"をテーマに1年間取り組み、意見交換と情報交換ができた。この結果をサービスに反映できている。	地域の方・近隣の他グループホーム職員・市職員をホームに招き、実際の様子を見てもらいながら実施している。民生委員から街区公園の活性化の呼びかけがあり利用者と公園にピクニックに出かけるなど少しずつ連携ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奈良市にはグループホームの現況を報告したり指導をもらったりしている。また、奈良市保護課で受給の方を、市と連絡を取って受け入れている。	最近では、市生活保護課の職員が受給者の暮らしぶりを見に来られ、ホームの現状などいろいろな報告した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について周知しており、拘束の無い暮らしを実践している。	「身体拘束排除宣言」を玄関に掲げ、実践している。法人統括責任者が認知症介護研究・研修仙台センターの研修を受け、その内容を管理者に伝えている。法人内のグループホームのネットワークで拘束の事例について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明育している。所内で虐待行為をしたことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明・教育している。まだ適用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書を文書で示し説明している。説明に当たっては、一方的にならないように、理解いただけたか、疑問点はないかを確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は利用者との日頃の対応・会話を通じて苦情・不満などを汲み取るように努めている。それらをスタッフ会議でオープンにし、利用者の思いに応えるようにしている。ケアカンファレンス時や来訪時には必ず面談し意見を聞く機会を設けている。	電話相談窓口を設置し、玄関に「ご意見受付ノート」を設けているが今のところ利用は無い。法人が運営する事業所全体の「音楽会」が年1回開催され、法人代表が各事業所の利用者や家族と交流し、意見交換できる良い機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日ごろの職員の意見や提案について、管理者で処理できないものはマネージャと相談し解決している。また、職員は月に1度の研修会議で代表者との意見交換ができる場を設けられており、代表者からマネージャ・管理者へフィードバックもされている。	管理者は職員が働きやすい職場作りに努めている。月1回のスタッフ会議でオープンな話し合いがされ、大きな課題については法人代表、マネージャに申し出ている。最近では、エレベーター・長期休暇・ごみ収集の問題が取り上げられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の親睦を図るよう定期的に親睦会を開いている。マネージャや事務長が職員の業務上の相談にあたり、ストレスの解消を図っている。毎日が勉強であるが、困難な事例には的確なアドバイスのできる人材がいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中段階研修・サブリーダー研修・リーダー研修を順次行っている。又、認知症介護実践研修、管理者研修・リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム運営協議会を立ち上げ、情報交換、勉強会の場を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあった時や、初期面談時には、利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なことをよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあった時や、初期面談時には、利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、家族の困っていること、不安なことをよく聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談がある時の殆んどはグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームでよいのか、一歩引いて観るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片づけを助けてもらったり、植物の水やりを助けてもらったりしている。また、植物の育て方、折り紙の折り方、歴史、礼儀等を教えてもらうように図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、1か月に1回はスタッフからの一言通信(ご様子をまとめたもの)・写真・ウェル便りを送付し、関係の維持向上に努めている。又、年に2回家族様参加の親睦会・食事会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟が尋ねて見えた時、近況のご報告ををするとともにアルバムを見てもらったところ、気に入られた写真を持ち帰られた。行かれないご希望の場所があれば、可能な範囲で車等でお連れしている。	親戚の方が訪問時、利用者と一緒に撮った写真を持ち帰ってもらったり、昔話をたくさんお聞きするよう努めている。本人のご希望で家族と榊原温泉に行かれた方がおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題で会話出来る様に内容を工夫したり、入居者同士のコミュニケーションを大切にしている。不意な立ち上がりなど危険を察知したとき、職員に知らせてもらったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養など他の介護保険施設に移られた場合もお顔を見に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居後数年が経ち、徐々にレベルが落ちて来られていることを受け止め、現状維持できるよう出来ることを見つけご満足いただけるよう個人ケアに努めている。	入居前情報・基本情報・入居後6ヶ月毎に作成される入居後情報が個人ファイルにまとめられている。個別ケアに努めるため、気づきノート・日々のケース記録に利用者の思いや意向を書きとめ、ケアの実践に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活史などを把握するシート、生活の流れに沿った(できることできないこと)の把握シートなどを作成し、アセスメントに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の方の過ごし方や心身状態を職員が把握し、連絡を取り合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の意見を聞き、家族カンファレンスを行っている。それらに加えて職員が意見やアイデアを出し合って介護計画を作成している。	日頃の気づきと家族カンファレンスの内容をもとに、個別ケアプランを作成している。サービスの評価を定期的実施し、漏れがないよう交付表に実施日を記入している。利用者全員のケアプランのポイントをまとめたシートで確認しながら日々のケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日常の暮らしの様子やバイタル値、排泄状況、食事量、往診時の看護記録などを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスと合同の行事・レクを行い、地域の人たちとの交流支援を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のグループホームの管理者と意見交換したり、独自のレクに誘い合ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、総合病院、薬局との連携をとって、個々の身体状況に合った適切な医療を受けられるように図っている。	利用者はホームかかりつけ医の月2回の往診と3ヶ月に1回血液検査をうけている。看護師(デイサービス所属)が週2回訪問し健康状態をチェックしている。専門医(歯科など)については利用者なじみの病院に家族と通院しており、その報告を受け個別家族用連絡ノートに記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理の為の看護職員を確保し、週に2回、全入居者の状態確認をしている。気のついたことは、スタッフや往診医に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を交えて、病院の担当者と現況や予後話し合い、早期の退院を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適用者はまだいないが、他ホームでの事例、経験をマネージャーが有しており、必要時には訪問看護の利用等対応できる体制になっている。	法人としての重度化対応指針は明文化されているが、将来利用者の状態の変化に沿って対応していく方針なので、入居時には家族に交付していない。本来のグループホームの良さを活かして生活していただくことを中心に考えており、終末期の看取りケアは今のところ対応していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員に周知・徹底している。看護師による応急手当での指導を全職員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を策定し、定期的に訓練を行っている。近隣の方には、非常時の応援をお願いできるよう申し入れている。運営推進会議にも消防署員の参加を頂き、地域の協力体制についてアドバイスをもらった。	現在消火器のみ設置されている。年2回の避難訓練(1回は夜間想定)を実施している。近隣にある他施設の避難訓練・地域の防災訓練にも参加し災害に備えている。週1回通っている公民館が地域避難場所になっているので、非常時の避難誘導に活かせる安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性、人格を尊重した言葉かけ対応をし、入居者に共感するように、ケア会議を通じて職員間の統一を図っている。	入浴時はカーテンをひく、トイレ使用時は「使用中カード」をかけておくなどプライバシーには配慮している。職員はいつも笑顔で利用者 に接している。レクリエーション時はリラックスした声かけをし、不安な時にはゆっくり親身になって話を聞くよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、献立の希望やレクリエーション内容、外出の希望等を聞きながら進めている。外食や外出時には、希望の買い物をしたり、自分でメニューを決めてもらう等取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務時間は後で取り戻せるとの共通認識から、入居者優先として、入居者のペースに合わせている。入居者個々のライフスタイルで過ごしてもらえるよう、自室でおられる時間帯は部屋の外から見守りを行ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望により髪形や服装にしているが、いつも同じにならないように、声かけし支援している。パーマ希望の入居者には、家族と連絡を取って、美容院の利用を支援している。スタッフの一人がとても上手なのでボランティア支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は入居者の好みや希望のあるものになっている。季節感も重視し、特に初物は可能な限り提供している。また、行事色のある食事内容や、個人の誕生日祝いの食事もしている。食事の準備や片付けも職員と一緒にしてもらっている。食事の前には献立を説明し、時には職員とテーブルを囲むこともある。	職員は利用者の体調管理のため知恵をしぼって食事メニューを考えている。材料は利用者と一緒に買出しに行く。誕生日祝いには本人の好物を作り、手作りケーキも出される。材料の下ごしらえ、後片付け、おしぼりたたみなど一緒に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリー、必要水分量、栄養バランスをおおよそ把握している。食べ残された為に不足の場合は代わりの物で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き誘導を行っている。痛みや治療が必要な場合には家族と連絡を取って、受診の支援をしている。入歯は、夜間に消毒液につけて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、昼夜のトイレ誘導を行って、できるだけトイレでの排泄を促している。トイレ誘導、介助はさりげなく行っている。特に失禁時には周囲の方にも気を配り、声を出しての促しは避け、さりげなく誘導している。	リハビリパンツの方が4名、6名の方は自立している。排便チェックのため4名の方のみ排泄表をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者が多いので、果物・野菜の多い食事に行っている。定時にトイレに誘導している。散歩と運動を毎日している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、回数の希望を聞き、ゆっくり入浴して頂けるようにしている。入浴は1名ずつ行い、同性の介護者が介助することになっている。入浴時は脱衣場と浴室の戸を閉め、プライバシーに配慮している。	毎日シャンプーを希望される方、入浴嫌いの方(2名)それぞれの希望にあわせながら週3日入浴している。水虫の方は入浴後足指の間をよく乾かし薬を塗りケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、掃除、食事作り、体操、レクリエーション等、日中の活動を通して、個々に合った生活のリズムを作るよう配慮している。必要な時には職員が個室に付き添い、ゆっくりと話しながら休息してもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容の勉強をしている。薬剤師や家族から説明を受けた内容を個別に記録し、医師の指示通りに服薬してもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯や取り入れ、食事の手伝い、買い物などは能力に応じて役割分担している。裁縫の好きな人、書道の好きな人、手作業の好きな人に材料を用意し、応援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や希望者にはスーパーへの買い物にお連れするなどしている。また、スーパーの隣に喫茶店ができたので週に一度は出かけている。市役所の菊花展や古寺散策は特にご満足いただけた様子。	スーパーへ買物、公民館へプルタブ回収に行くなど気軽に散歩に出ている。楽しみにしておられる外食、般若寺参りなど希望に合わせて外出している。	職員間で話し合い日常的な外出支援がなされており、それを個別ケース記録に残して家族に説明し、確認できる工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人が管理している。管理できない人には職員が支援している。本人が買い物を希望したり、スーパーへの買い物に同行された時には、買い物して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、居室ですべて頂けるよう配慮して援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家をそのまま利用しているので、玄関、居間、キッチン、浴室等はいずれも家庭的である。狭いながらもベランダを利用して季節の花を植えている。	居間・台所には明るい日射しが入り、L字型にソファやテーブルを置き、落ち着いて過ごせるよう工夫している。台所と事務所が接しているため職員は動きやすい。トイレのドアには「御不浄」と表示している。脱衣所は少し狭く、暗い感じをうけた、照明とカーテンの工夫が一つの方法かと考えられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的なりびングで、気のあった方々で楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、鏡台、椅子、植木、装飾品を持ちこまれ自室として安心されている。	居室の表札は木製で暖かみがある。室内には、馴染みのタンス、仏壇、ぬいぐるみなどが置かれ居心地よく過ごされている。観葉植物の世話をされている方もいる。家族の写真、手紙が傍に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家活用型である為、エレベーターや手すりを設置したり、浴槽の出入りをしやすくしたり工夫している。		